



シェアサイクル実証実験の開始について

実証実験概要

■ 目的

- ①市内拠点を中心とした回遊性強化への寄与度把握
- ②公共交通(路線バス等)の補完手段としての可能性把握
- ③公共交通の利用促進への寄与度把握 (自家用車→公共交通)

■ 期間 令和7年4月1日～令和12年3月31日 (5年間)

■ 事業者概要 会社名：OpenStreet株式会社

シェアサイクルサービス「HELLO CYCLING」

展開都道府県 **26**都道府県
登録会員数 **410**万人
ポート数 **10,100**箇所
協定自治体数 **141**自治体

大阪府

ポート数 **1,209**箇所
協定自治体数 **17**市

大阪市、池田市、豊中市、吹田市、摂津市、門真市、大東市、東大阪市、守口市、八尾市、松原市、堺市、藤井寺市、羽曳野市、泉大津市、箕面市、寝屋川市

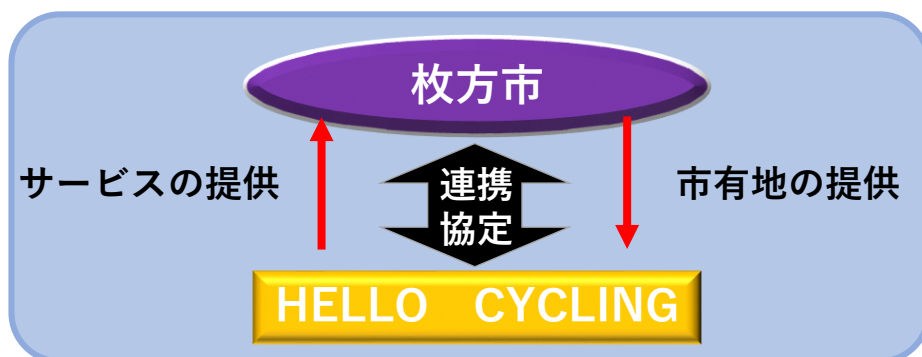
料金

30分**160**円 (延長15分160円)



※2024年12月末時点

■ 実施体制



■ 導入自転車



プレスリリース(R7.3.25)



PRESS RELEASE

枚方市 プレスリリース (情報提供)

令和7年(2025年)3月25日

暮らしが動き出す！新しい移動のカタチ

公民連携で進むシェアサイクル実証実験

市は、シェアサイクルサービス「HELLO CYCLING」を運営する OpenStreet 株式会社と連携し、シェアサイクルを市内に導入する実証実験を4月からスタートする。3月24日に同社との間で本実証実験に関する協定を締結し、市内拠点を中心とした回遊性強化や公共交通の補完・利用促進に資するラストワンマイルの移動手段としての有効性を検証する。シェアサイクルは市役所本館のほか、市内12カ所で設置し、今後、市内全域に設置箇所を広げていく。「HELLO CYCLING」は、サービス展開が空白地帯となっていた枚方市に展開されることで、淀川沿いに大阪市と京都市までが繋がれ、観光地やビジネスエリアを結ぶルートが作りやすくなるため、地域間のアクセシビリティが向上する。市担当者は「来月に開幕する大阪・関西万博により本市を訪れる観光客にも市内の周遊に使っていただき、市の魅力を感じてもらえたら」と話す。

- ★ シェアサイクルは複数のステーションで自由に乗り降りができる利便性の高い交通システムとして、自宅から駅やバス停、駅やバス停から会社や学校までの移動手段、観光地から観光地へ周遊のための移動手段として全国各地で導入が進められている。
- ★ 今般、民間企業と本市の対話の窓口として設置している「公民連携プラットフォーム」に、OpenStreet 株式会社より自社のシェアサイクルサービス「HELLO CYCLING」を展開することで、市民及び来街者の交通補完に寄与したいという自由提案を受け、回遊性強化による地域活性化、路線バスの減便など縮小する公共交通機能の補完や公共交通との相互利用による公共交通の利用促進に向けて取り組んでいく。



写真左：伏見市長

写真右：OpenStreet 株式会社 工藤代表取締役社長 (CEO)

- ★ 市は、実証実験の総括とステーション用地として市有地の提供を行う。
- ★ OpenStreet 株式会社は、ステーションの設置・維持管理、民有地へのステーション拡大など、シェアサイクル事業の運営全般を行う。なお、本実証実験の運営に関する費用の全てを OpenStreet 株式会社が負担する。

